

## 2. 気象庁震度階級関連解説表と旧震度階との比較

### 2.1 人体感覚

表-2.1 気象庁震度階級関連解説表と旧震度階との比較（人体感覚）

震度階級	人間		旧震度階 昭和24年～平成8年
	震度階級	注記	
0	人は揺れを感じない。		0：無感 人体に感じないで地震計に記録される程度。
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。		I：微震 静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震。
2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。		II：軽震 大勢の人に感ずる程度のもので、戸障子がわずかに動くのがわかるぐらいの地震。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいる。		III：弱震 家屋が揺れ、戸障子がガタガタと鳴動し、電灯のようなつり下げ物は相当揺れ、器内の水面の動くのがわかる程度の地震。
4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。		IV：中震 家屋の動揺が激しく、座りの悪い花瓶などは倒れ、器内の水はあふれ出る。また、歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震。
5弱	多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。		V：強震 壁に割れ目が入り、墓石・石灯ろうが倒れたり、煙突・石垣などが破損する程度の地震。
5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。		
6弱	立っていることが困難になる。		VI：烈震 家屋の倒壊は30パーセント以下で、山崩れが起き、地割れを生じ、多くの人々が立っていることができない程度の地震。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。		
7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。		VII：激震 家屋の倒壊が30パーセント以上に及び、山崩れ、地割れ、断層などを生じる。